



かんしょく

**かんしょくプロジェクト
2025年度 年次報告書
ANNUAL REPORT 2025**

目次

ご挨拶	03
「かんしょく」に込められた思い	04
かんしょくプロジェクトとは	05
プロジェクトの仕組み	06
活動実績	07
ステークホルダーの声	08
企業ボランティア参画	09
パートナー・提携先	10
応援者の声	11
寄付金の使い道	12
企業協賛・継続支援のご案内	13
運営団体	14

ご挨拶

かんしょくプロジェクトへの想い

途上国の絶対的貧困とは異なり、

日本国内の困窮世帯が抱える生きづらさや孤立に触れる中で、

最も深刻でやるせない格差は、教育や体験の格差だけでなく、

人々の繋がりや支え合う関係の欠如だと強く感じました。

人は食べ物だけでなく、愛によって育まれる存在だと改めて気づき、

この想いから『最愛の食卓』という組織を立ち上げました。

日本各地で『かんしょくの輪』が広がり、

一人で食事をしている方、生きづらさを抱えている困窮世帯の方々が繋がり、

絆を深め、お互いに助け合うような関係を築けることも目指しています。



代表理事

柏倉美保子

ドイツ財団日本常駐代表。投資銀行、ESGアナリスト、世界経済フォーラムを経て2017年から現職。慶応大学卒、ケンブリッジMBA卒、米国公認会計士資格。シングルマザーへ食の支援『あだちキッズカフェ』創業者・一般社団法人『チョイふる』の共同創業者・理事。

「かんしょく」に込められた想い



食べものを残すことなく全部食べきる『**完食**』

地球環境に優しい食事である『**環食**』

感謝を込めて絆も深める『**感謝食**』

『かんしょく』という言葉には、
食を通して社会をより良いものとするための、
さまざまな意味が込められています。

かんしょくプロジェクトとは

かんしょくプロジェクトは、以下の課題を解決するために立ち上がりました。

1. 継続的に発生する食品ロス

環境省の発表によると、日本の食品ロスは年間約464万トンと推計されています。そのうち、家庭系が約233万トン、事業系が約231万トンを占めています。事業系食品ロスの中でも、企業の社員食堂などで発生する「できあがった食事」は再分配の仕組みが十分に整っておらず、解決が難しい領域とされています。まだ食べられる食事が、日々大量に廃棄されている現状があります。



2. 食料アクセスの困難化

日本の相対的貧困率は15.4%（2021年）とされ、約6~7人に1人が相対的貧困状態にあると言われていています。また、世界的な原材料費の高騰や物流コストの上昇を背景に食品価格が上昇し、低所得世帯や子育て世帯、高齢者を中心に、食料品の確保がより難しい状況となっています。さらに、気候変動による農作物の不作や、国際的な紛争による供給不安も、食料の安定供給に影響を及ぼしています。



3. 進む孤食化と高齢者の孤立

農林水産省の調査によると、1日のすべての食事を一人でとる頻度について、「ほとんど毎日」が13.7%、「週2~5日」が20%とされています。また、日本の単身世帯のうち65歳以上の高齢者が約46%を占めており、高齢化の進行とともに「孤食」状態に陥りやすい状況にあります。孤食は、生活の質（QOL）の低下のみならず、栄養バランスの偏りや生活リズムの乱れを招きやすく、認知機能にも影響を与えると言われていています。

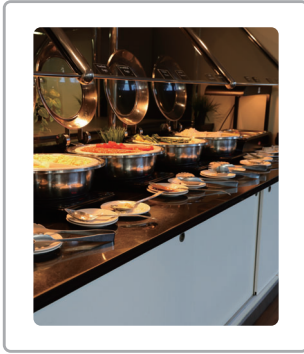


プロジェクトの仕組み

かんしょくのスキーム

協力企業

社員食堂などでの食事提供



運送準備



配膳終了後のキッチンで、余ってしまった食事を容器に移します。

各拠点へ運送



徹底した温度管理の元、提供拠点へ運送されます。

ボランティア

必要とする方への食事提供



拠点に到着・提供の準備を終え、食事の提供を開始します。



食事を提供していただける企業の方

社員食堂やレストラン、ホテルのビュッフェなど、企業の日々の活動から出てしまう、まだおいしく食べられるのに捨てるしかない食事たち。独自の輸送システムを活用し、食事を必要とする方に提供することができます。



お食事を受け取り・場所提供いただける方

集会所など、食事を必要とする方が集まることのできる場所で、届けられた食事を美味しく食べます。



ボランティアとして参加していただける方

提供される食事は、配膳等でご協力をいただけるボランティアの手を通じて、必要とする方のもとに届けられます。

活動実績

■ 数字でわかる活動実績 (2024年11月~2026年3月31日)

食品ロス削減量
(トライアルテスト含む)

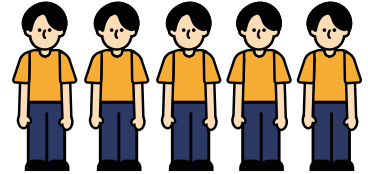
749kg



*食品ロス削減の合計
*トライアルの数値は暫定のものです

喫食者数
(食事数の合計)

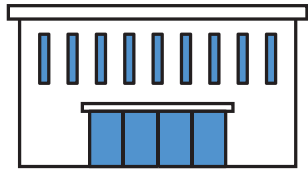
1167名



*一人複数回の食事を含む

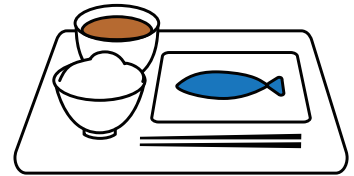
拠点数

6カ所



配食数
(トライアルテスト含む)

3280食



*1食分250g想定

■ その他の活動実績

『令和7年度 食品の消費行動に伴う食品ロス削減対策導入モデル事業』に採択



かんしょくプロジェクトは、環境省のモデル事業として採択され、2026年2月末まで環境省の運営管理のもとで事業を実施しました。

ステーキホルダーの声



お食事提供元ご担当者様

もともと食品廃棄量は多くありませんでしたが、それでも欠品を防ぐための余剰分は廃棄に繋がっている認識はありました。最愛の食卓さんとは立ち上げ期から関わることができましたので、召し上がる方たちの顔が見える、というも寄付の意義を強く感じています。お話を初めて伺ってから2年かけてのランチとなりましたが、このような社会意義のある取り組みに立ち上げ期から一緒できていることは非常に光栄なことです。皆さんと連携する中で、ランチまでに20回以上の食の安全・品質に対するテストを行いました。建設的に同じ目的に向かってお話できる関係であることに感謝しています。これからの展開が楽しみです。



お食事提供先ご担当者様

食べることは生きること。しかし、経済的な事情や家庭の状況によって、毎日の食事がままならない子どもたちがいる現実があります。一方で、まだ美味しく食べられるのに廃棄されてしまう食材も少なくありません。私たちは、この「もったいない」を「ありがとう」に変え、子どもたちの温かい食卓を支える仕組みを応援しています。



ボランティアの方々

●食事を通じ家族や職場に笑顔が溢れる環境を肌で感じることができました。

●初めてかんしょくプロジェクトの取り組みを聞いた時、フードロスの課題を解決するだけでなく、住民の皆さんの孤食課題を解決できるのは、循環していて良いなと思いました。私は自分の住む地域で活動させていただいているので地域のことを深く知れるきっかけになることはとても楽しいですし、人生の先輩と呼べる方とお話するのはとても勉強になります。



利用者の方々

●余った料理をこのような活動を通して減らすことができすぎてすごく良いなと思いました。食品ロスの問題は、小さい頃から言われてきた問題でそれを解決するのに関わる事ができて嬉しいです。これからも参加したいと思います。(20代・男性)

●毎回色々な料理が食べられて毎週楽しみにしています。このような形で参加させていただく機会をありがたく思います。(40代・女性)

企業ボランティア参画

株式会社 三井住友銀行



2025年10月-12月

同社グループが掲げる「社会的価値の創造」に資する取り組みの一環として、社員の皆さまが現場で活動に参加されて、地域課題に向き合う企業のモデルとなっています。

活動内容

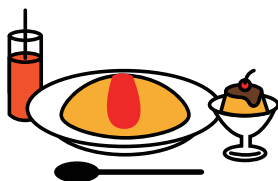
企業ボランティア参加者の皆様には、会場設営(机・椅子の配置)、食事の盛り付け、食後の片付けなど、運営全般を支援頂きました。また、利用者と同じ食卓を囲む形で食事を共にすることで、地域との交流促進にも貢献して頂きました。

活動実績

食品ロス削減量

59.94kg

1食250gの場合、約**240食分**に相当



ボランティアに参加した社員数(のべ).....41名

ボランティア総時間.....45時間

居場所への貢献日数.....18日

居場所と一緒に食卓を囲んだ人数.....154名

社員ボランティア様の声

●「食事会の終わりに参加者の方が『〇〇さん、また来週ね』と声をかけてくださったとき、単なる“フードロス削減と食支援”ではなく、この場が人と人の絆を育む時間であることを強く感じました。皆でテレビを見ながら「インフルエンザが急に流行りだした」「スープカレーは美味しい」等々、日常の何気ない会話を受け止める人が周りにいることが大事だと思いました。「最愛の食卓」に込められた思いがわかった気がします。」

●「部署内での交流・コミュニケーションの機会にもなりました。」

パートナー・提携先

共同設立パートナー



AGBIOTECH

AGBIOTECH株式会社は、「地球と人々の幸せを創造する」を企業理念とし、環境保全型農業の推進と、フードサプライチェーンにおける環境負荷の低減に取り組む企業です。

協カパートナー



HATAMA INC.



TANDD 株式会社 ティアンドデイ



事業提携先



東京みんなでサロン 登録

都営住宅の集会所・広場で開催されるイベントと連携して地域の方向けに活動を行っています。



消費者庁食の環 プロジェクト参加

食でつなぐ共生社会の実現に向けた消費者庁のプロジェクトに参加しています。



プラチナム20周年 記念プロジェクト

PR会社であるプラチナムご協力のもと、各種メディアに本プロジェクトを取り上げてもらっています。

応援者の声

■ 応援者の声



乙武 洋匡 様

安心して食事をとり、誰かと食卓を囲めることは、すべての子どもにとって大切な権利だと思います。「かんしょくプロジェクト」が食を通じて子どもたちの居場所やつながりを生み出していることに大きな意義を感じました。この取り組みがさらに広がっていくことを心から応援しています。



参議院議員／
食品ロス削減及びフードバンク
支援を推進する議員連盟 事務局
竹谷 とし子 様

食品ロス削減推進の取り組みが全国で進む中、「かんしょくプロジェクト」は、地域に根ざした実践として大きな可能性を感じます。食品ロス削減と共食の場づくりを同時に実現するモデルとして、今後さらに広がっていくことを期待し、応援しています。



元厚生労働大臣・
元内閣官房長官
塩崎 恭久 様

少子高齢化が進む中、地域における共助の仕組みづくりはますます重要です。「かんしょくプロジェクト」は、食品ロスという社会課題に向き合いながら、地域のつながりを再生する先進的な取り組みです。持続可能な地域社会の実現に資するモデルとして、今後の展開を期待しています。



株式会社スーパーストックキー
代表取締役
工藤 萌 様

食卓は、家庭の中だけにあるものではなく、社会の中で、みんなで育てていくものでもあると思います。まだ食べられる食事が、誰かとのつながりや、あたたかな時間を生んでいく。かんしょくプロジェクトは、食の循環を通じて、やさしい食卓を社会に増やしていく取り組みだと感じました。食に携わる一人として、心から応援しています。



「HAJIME」オーナーシェフ
米田 肇 様

食の根源にあるものは、「希望」です。食が余っている場所から、必要な場所に届けるという仕組みは、単に食べ物をつなげると言うことに留まらず、希望をつなぐということと同じです。経済システムの発展は、指数関数的に進んでいますが、その中で人とのつながりや心の豊かさが置き去りにされています。この「かんしょく」の取り組みが広がることで、食を通して多くの人の心と心をつなぎ、心の豊かな希望の持てる社会につながっていくことを願っています。



認定NPO法人アクセプト・
インターナショナル 代表理事
永井 陽右 様

かんしょくプロジェクトとの連携を通じて、「食」をきっかけに人と人がつながる力を改めて実感しました。「食」は対話の入り口であり、無関心を乗り越える力を持っています。社会の周縁にいる人々が、尊厳をもって迎え入れられる場を共につくれることに、大きな意義を感じています。包摂と人の関わりの中で変化を起こしていく。この連携がその一歩になると信じています。



株式会社arca 代表取締役／
クリエイティブディレクター
辻 愛 沙子 様

飽食の時代。いつ何時でもコンビニに行けば食べ物が手に入り、全国チェーンの飲食店ではワンコインで美味しい牛丼やハンバーガーやドリアが食べられる。「フードロス」という言葉が社会問題として広がるほどに、この社会には食べ物が溢れているのです。しかし、そんな非常に便利で手軽な現代の日本の食事情は、ある側面から見た見え方でしかないのかもしれない。便利だけが進む社会から、支え合いの循環をつくり出す社会へ。同じ社会を生きる子どもたちが、一人でも多くお腹いっぱい元気よく笑顔で過ごせるよう、この「かんしょくプロジェクト」が支え育てる未来の可能性を、心から応援しています。



株式会社
三井住友銀行

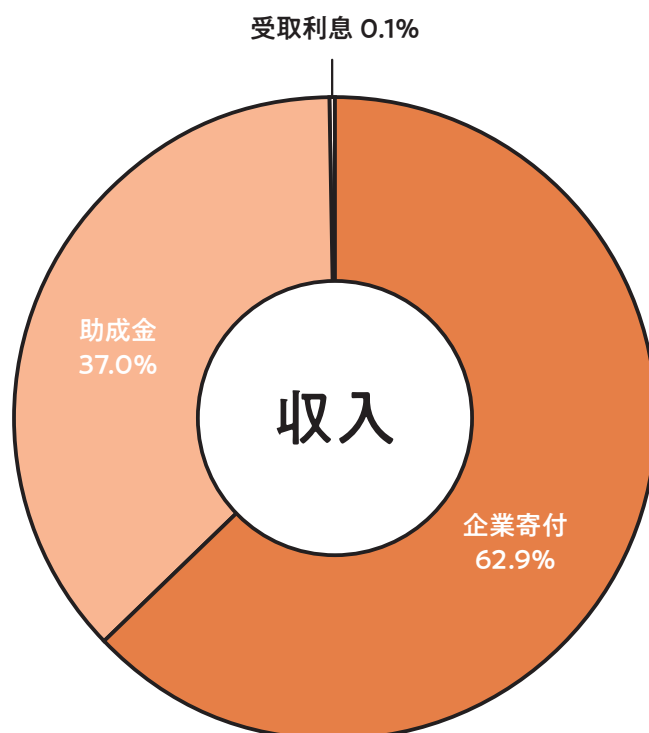
食品ロスという社会課題に向き合いながら、食を通じて人と人をつなぎ、温かな居場所を生み出している「かんしょくプロジェクト」の活動に共感しています。企業としてこのような取り組みに関わることは、社会とのつながりを実感し、社員一人ひとりが社会貢献を身近に感じる大切な機会にもなっています。今後の活動の広がりを心より応援しています。

寄付金の使い道

収入の部

合計

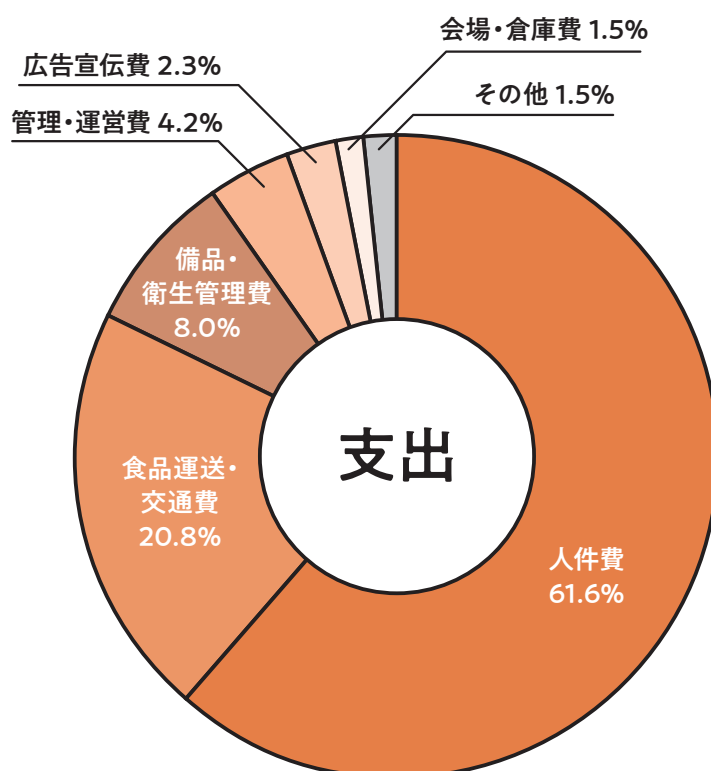
11,943,322円



支出の部

合計

7,437,476円



企業協賛・継続支援のご案内

■ 単年度スポンサー（1年更新）

ブロンズスポンサー 30万円／年

- 公式サイト「協賛企業一覧」への社名掲載
- かんしょくニュースレター（月1回）
- 協賛企業向けニュースレター（年2回）
- 年次活動報告会への参加
- 活動写真・ストーリー提供（社内外広報用素材）

シルバースポンサー 60万円／年

- ブロンズスポンサーの特典すべて
- 公式サイトでのロゴ掲載
- 拠点での社会人ボランティア研修受け入れ
- スタッフ向けオンライン説明会
（活動理解・社会課題レクチャー）

ゴールドスポンサー 100万円／年

- シルバースポンサーの特典すべて
- 代表理事による企業内勉強会（年1回）
- 代表理事・事務局との報告朝食会（年1回）

プラチナムスポンサー 300万円～／年

プラチナムスポンサーは、単なる協賛を超え、かんしょくプロジェクトの活動や事業推進に深く関わっていただく上位枠です。参画内容は、各企業様と対話を重ねながら個別に設計します。参画金額は個別設計とし、内容は各企業様と対話を重ねながら個別に設計します。

■ 継続支援プラン（別枠）

マンスリーサポーター 500円／月（法人・個人）

- 公式サイトに「マンスリーサポーター」として社名掲載
- かんしょくニュースレター（月1回）
- 店舗・社内で利用可能な「支援証明（PDF）」のご提供

※ 本プランは、月単位で内容の見直し・停止が可能です。

※ マンスリーサポーターは、金額の多寡に関わらず、継続して支えてくださる方を大切にする枠です。

年間30万円以上のご支援については、ご本人のご希望に応じてスポンサー枠への切り替えも可能です。

協賛枠の期限と発表について

ご参加いただいた企業様は、HPおよびリリースでお名前を掲載致します。リリースは、達成金額に関わらず、必ず実施致します。内容はスポンサー様のご紹介が主役で、序列や金額の比較は行いません。

私たちが大切にしていること

- 広告効果や営業成果をお約束する協賛ではありません。
- ロゴの大小や企業間の序列を競う設計にはしていません。
- 初年度は、まず1年間、無理のない形でご参加いただくことを前提としています。

循環型社会の実現を共に目指し、確実に支えてくださる方と一緒にできれば幸いです。

運営団体

団体名 一般社団法人 最愛の食卓

設立日 2024年4月

スタッフ
代表理事 柏倉美保子
事務局長／理事 山本愛
理事 大塚由佳
広報長 菅野絵礼奈
拠点統括長 井野瀬優子
事務局コーディネーター 武石晶子
拠点長／衛生管理責任者 中村栄美子
拠点長／事務局コーディネーター Smitha Yellayi
拠点長 平井美里
事務局サポート Isaac Loomis
運営管理 山本千恵
会計監査 竹中暢子

活動内容
地域の食生活支援事業
困窮世帯への食生活支援事業
企業・団体との協働事業

\ SNSも更新中! /



ご協力者さまを募集しております



お食事受け取り・
場所提供いただける方



食事を提供いただける方



ボランティアとして
参加いただける方



最愛の食卓

Table of Love